

東海道五十三次の内

白須賀宿～二川宿まで歩く

ホテル「ルートイン豊川インター」の朝食は6時から始まる。7時近くに行くと食事処が空いて、列を作って並ぶことは無い。

8時15分にホテルの駐車場に止まっている大型バスに集合する。

昨日ゴールした「おん宿白須賀」近くの駐車場までバスで行き、下車後歩くための準備運動をし、本日の歩く工程、名所旧跡、トイレタイムをとる場所、歩く時の注意事項等をウォークリーダー（随行案内者）より説明を受ける。ウォークリーダー（随行案内者）は昨日と同じ「旅人企画」の方で、1号車は上垣内さん（男性）、2号車は山本さん（男性）で、TJ（花バス観光）担当者は1号車橋田さん、2号車は石原さんで、行く先々の交通安全、集合時及びバス乗下車時の人数確認等、グループの前を行ったりしんがりを務めたり、まとめ役をさせていただくベテラン添乗員の皆さんだ。

本日は2018年4月14日(出)、長野ではまだまだ寒いが、静岡県は歩くには丁度良い季節だ。今回から二泊三日の「歩け歩け」の旅を京都まで続ける事になり、今日は今回の二日目になる。参加者は昨日と同じ59名、大型バス2台である。

「おん宿白須賀」の駐車場から西へ向かって（京都に向か）歩く。

ウォークリーダー（随行案内者）の説明を聞く

『最初、白須賀宿は「汐見坂」の下にある海岸近くの「元町」に作られたのですが、宝永四年（1707年）の大地震と津波で宿場が全壊し、「汐見坂」の上の現在地へ移転されました。ここは静岡県湖西市になります。

白須賀宿は街並み東西14町19間（約1.5km）、家数613軒でその中に、本陣1軒、脇本陣1軒、旅籠27軒が含まれます。人口は男性1,381人、女性1,323人、合計2,704人です。小さい宿場ながら、宿場の道幅は3.6mあった様です。』

曲尺手という軍事的意図のある直角の道を通り、「本陣跡」と書いてある石柱が立っている所を見ながら、街中を歩く。ここも本陣の建物らしきものは無い。「高札場」、江戸より七十一里目の「一里山一里塚」の前を通る。いつも通りの宿場町であるが、火事の延焼を食い止める為の「火坊樹」はその昔この宿場にもあったのが、今では白須賀宿しか残っていないという。

白須賀宿は遠江の国の西端で、次宿からは



曲尺手の看板

三河の国になる。

白須賀宿から西に向かって歩き、二川宿に入る。ここは現在の静岡県豊橋市になる。

筋違橋を渡り、江戸より72番目の二川宿一里塚跡を見て、いよいよ「二川宿本陣資料館」に着く。

ここが本日のメインとなる目的地 白須賀宿 本陣跡である。駐車場が広く、そこにある立体案内板は、ガタイが大きく、立派な造りになっていて目立つ案内板だ。

二川宿本陣駐車場で資料館のガイドさんの説明を聞く。

『この二川宿本陣資料館は、文化四年（1807年）より本陣廃止の明治三年（1870年）まで本陣を勤めた馬場家の寄贈により保存再建された建物です。ここでは本陣の建物と資料館が併設されており、本陣資料館は平成30年（1990年）に開館しています。』

「本陣」は大名や公家など貴人の泊る宿でした。旧東海道の宿場で本陣の建物が残っている宿場は2カ所しかありません。その一つが二川宿本陣です。この本陣は数度の火災に遭っていますが、安政二年（1855年）まで増改築をして、総建坪233.5坪（約773.5㎡）になっています。

この二川宿は東海道五十三次の内、江戸より三十三番目の宿場町で、江戸日本橋より七十二里余り（約283km）、東の白須賀宿へ一里十七町（約5.8km）、西の吉田宿へは一里二十町（約6.1km）の距離でした。宿場としては小規模で、街並みの長さは東西十二町二十六間（約1.3km）ありました。

天保十四年（1843年）の「東海道宿村大概帳」によれば、加宿大岩町を

YUME 追い人



白須賀宿 本陣跡



東海道二川宿 大駐車場



二川宿御本陣



二川宿御本陣 正面玄関



二川宿御本陣

含めて、人口1,468人で、男性721人、女性734人で、合計で13人の人数が違いますが、このような人口になっていました。家数は328軒ありましたがその内、本陣1軒、脇本陣1軒、旅籠38軒ありました。

二川宿本陣資料館に展示してあるテーマは「東海道」、「本陣」、「二川宿」です。

「東海道」のテーマでは徳川家歴代の将軍の関係図、東海道五十三次の歴史、東海道五十三次の宿場町、大名行列の説明、歌川広重の東海道五十三次の浮世絵の複写等展示されています。

「本陣」に関しては、二川宿本陣の間取り図及びその解説、本陣の歴史及び使命、本陣に宿泊した大名の名前と大名の看板、馬場家の歴史、本陣馬場家に代々伝わる鯉のぼり、武者飾り、つるし飾りなどが展示されています。馬場家の中庭、土蔵等も綺麗に整備されています。

「二川宿」のテーマでは、天領であった二川宿の歴史、二川宿の町割りの復元模型、脇本陣、問屋場、等の説明と、近隣の協力村の歴史、二川宿史跡マップ等が写真と共に展示解説されています。二川町では、2016年度に都市景観大賞の都市空間部門で「国土交通大臣賞」を受賞しております。

この本陣資料館には、「浮世絵摺り」や「双六」が出来る体験コーナーなどもあり、色々な面で楽しむことができます。

本陣資料館のすぐ近くに「国登録有形文化財」の商家造りの「駒屋」があります。商家を営んでいた他、名主や問屋役などを勤めた「商家駒屋」を、所有者の田村家から豊橋市が譲り受け、3年間の修理の上、平成27年(2015年)9月に「文化交流施設」として活用が始まりました。この商家は江戸時代後期から大正時代に建てられた8棟の建物からなっております。土蔵が多く、海鼠壁が綺麗に保存復活されています。

二川宿の街道筋にある江戸時代以降の建物と旧跡は、東海道を東より(江戸方より)商家駒屋、問屋場跡、脇本陣跡、本陣資料館、高札場跡、年貢米などを備蓄した郷倉跡、立場茶屋跡、岩屋江八丁道標などがあり、火打ち坂へと続き、その後吉田宿に向かいます。又本陣一帯は平成15年5月に豊橋市指定有形文化財に指定されています。』

二川宿本陣入り口の建物は街道と平行に配置されており、家紋が染められた幕が立派な門に掛けられ、「これが本陣の建物の造りなのか」と感心させられる。門の奥に本陣入り口の「正面玄関」



二川宿本陣資料館



御本陣内部のつるし飾りとひな飾り



商家造りの「駒屋」

がある。本陣の中に入り、広い本陣の建物、庭、建物内部に展示説明してある内容を見て回る。とにかく広くて大きい建物で、材料も大きいものを使っている。

本陣資料館の近隣に「清明屋」という大きな旅籠が最近復元されている。入場無料だ。

街中を歩くと「旅籠小川屋」、すぐ横に「旅籠笹屋」、近くに「旅籠屋和泉屋」と、家の前に屋号を書いた看板が掲げている今風の家がある。江戸時代に旅籠を営んだ家なのだろうと想像する。

二川宿の街並みは当時を良く表していると思う。良く保存復元されており、私の好きな宿場町の一つだ。ここ二川宿伝統の「柏餅」を同行者からいただき、美味しくいただいた。本館資料館にある「浮世絵摺り」の体験コーナーで浮世絵摺りをする。良い記念になった。

JR二川駅でトイレタイムとなり、江戸から73番目の「飯村一里塚」を通り、秋葉山常夜灯で小休止。ここで秋葉山常夜灯の歴史、庶民の参拝講の説明をウォークリーダー(随行案内者)に説明していただく。

近くの広い道路では、長野では珍しい路面電車が走っている。TJ添乗員の橋田さんにこの路面電車について車種や車輪の大きさ、車輪幅(線路幅)、製作の会社、その内容等色々お聞きする。

吉田宿に入る。中世では「今橋」と呼ばれ戦国時代には「吉田」と改められ、明治になってから「豊橋」と改称されたという。

豊川稲荷へ着く。正面の拝殿が善光寺さんと似ているお稲荷さんだ。ここが2日目のゴール地点である。豊川稲荷前の「松屋」で夕食を取り、バスにてホテル「ルートイン豊川インター」に着く。このホテルの同じ部屋で二泊するので、荷物はそのまま楽ができた。

今日はあちこちに寄り道をし、約18km歩く。ホテルに入り、疲れたのでシャワーを浴びてすぐにベッドに入る。

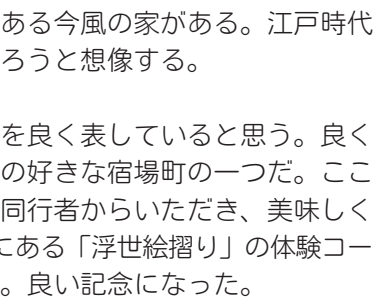
明日は3日目、豊川稲荷がある「吉田宿」からどのような所を歩くか楽しみだ。



商家「駒屋」の土蔵



御本陣の中庭



長野では珍しい路面電車



旅籠屋「和泉屋」の表示がある家

次回(吉田宿~御油宿)に続く